

令和6年度 決算のあらまし



シェアサイクル運営事業



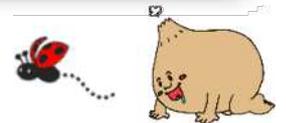
食による適正体重化事業



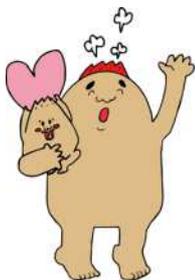
児童クラブタブレット学習支援事業



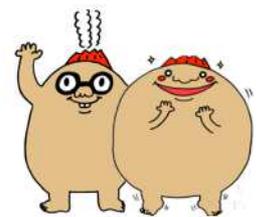
歩いて楽しめるまちづくり推進事業



つながる人・まち 彩りあふれる 躍動都市・かごしま



目	次
●令和6年度の主な事業実績	P1
●令和6年度の決算の状況	P3
●一般会計決算額の内訳	P4
●健全化判断比率と資金不足比率	P7



マグマシティ PR キャラクター
火山の妖精 マグニオン

令和6年度の主な事業実績

「市民のための市政の実現」に向け、6つの基本目標のもと、次の諸施策に重点的に取り組みました。

1 信頼とやさしさのある 共創のまち

①町内会デジタル活用促進補助金(918千円)

町内会活動の効率化、負担軽減や活性化を図るため、町内会における情報発信や情報共有のためのデジタルツール活用に係る経費の一部を助成しました。

②住民異動手続き等における

「書かない窓口」事業(22,970千円)

住民異動手続き等における「書かない窓口」のシステムを本庁・谷山支所で本格運用するとともに、伊敷支所など7支所へ拡充し、市民の負担軽減や利便性の向上を図りました。



③ふるさと納税推進事業(962,582千円)

民間の専門的知見を活用しながら、魅力的な返礼品の掘り起こしや、民間ポータルサイトでのPR、クラウドファンディング型ふるさと納税などの取組を強化し、本市のブランド価値向上と寄附額の増を図りました。

④アジア太平洋都市サミット開催事業(64,224千円)

本市で初めて開催し、アジア太平洋地域の市長等が一堂に会して都市問題の解決に向けた相互協力やネットワークを構築するとともに、観光消費の拡大につながるよう本市の魅力を発信しました。

このほかにも、次の事業を行いました。

- 地域の魅力・活力共創事業
- デジタルスマートシティ推進事業
- 行政手続オンライン化推進事業
- 電子申請システム等運用事業
- 姉妹友好都市等との交流事業
- マグマシティ推進事業
- マーケティング推進事業
- かごしま移住支援・プロモーション事業
- 女性活躍推進事業 など



2 自然と都市が調和した うるおいのあるまち

①GXに向けた脱炭素モデル調査事業(10,945千円)

官民一体となって取り組むGXを推進する脱炭素モデル調査事業を実施しました。

②食品ロス削減マッチングサービス導入事業(1,080千円)

食品の売れ残りを防ぎたい小売店と消費者のニーズをスマートフォンなどでマッチングするフードシェアリングサービスを導入し、食品ロスの削減を進めました。



③甲突川千本桜再生プロジェクト事業(22,768千円)

甲突川千本桜再生プロジェクト策定に向け、関係機関等と連携した取組を進めました。

④動物愛護サポート事業(1,108千円)

動物愛護に関する施策の方向性などを検討する動物愛護推進協議会を設置するとともに、サポーターの活動を支援しました。



このほかにも、次の事業を行いました。

- シェアサイクル運営事業
- 次世代自動車等普及促進事業
- 粗大ごみ受付システムオンライン化事業
- 横井埋立処分場(2工区3期)整備事業
- 花と緑のハーモニー事業
- 武岡公園整備事業 など

3 魅力にあふれ人が集う 活力あるまち

①大阪・関西万博を契機としたプロモーション推進事業(10,166千円)

大阪・関西万博を契機としたインバウンド誘客に向け、広域連携によるプロモーション等を実施しました。

②磯ビーチハウス利活用検討事業(2,045千円)

仙巖園駅の開業に合わせ、磯ビーチハウスの利活用の取組を進めました。



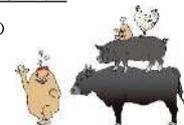
③スケートボード等専用施設整備検討事業(1,971千円)

スケートボード等専用施設の整備に向けた基本構想を策定しました。



④飼料自給率向上対策事業補助金(5,100千円)

飼料価格の高騰が続く中、飼料自給率の向上を図るため、国産粗飼料を確保する取組を支援しました。



このほかにも、次の事業を行いました。

- クルーズ船誘致・受入事業
- ナイトタイムエコノミー推進事業
- 磯新駅設置促進事業
- 桜島自然体験アクティビティ整備事業
- 平川動物公園遊園地・錦江湾公園リニューアル事業
- 維新ふるさと館リニューアル検討事業
- 鹿児島アリーナリニューアル検討整備事業
- 中小企業デジタル広告支援事業
- 地域商社支援事業
- 企業立地推進事業
- 中心市街地にぎわい創出支援事業
- スマート農業推進事業 など



4 自分らしく健やかに暮らせる 安心安全なまち

①重層的支援体制整備事業(53,167千円)

地域共生社会の実現に向け、地域住民の複雑化・複合化した支援ニーズに、関係機関や地域が連携して対応する重層的支援体制を整備し、相談支援、参加支援、地域づくりに向けた支援に一体的に取り組みました。

②元気いきいき検診事業(527,676千円)

生活習慣病の予防・早期発見のため、各種がん検診等を実施するとともに、30歳台への超音波検査による乳がん検診を導入し、検診内容の充実を図りました。

③犯罪被害者等支援条例制定事業(201千円)

犯罪被害者等支援の充実を図るため、犯罪被害者等支援条例を制定しました。



④桜島火山防災研究所設置準備事業(9,791千円)

火山専門家を登用し、大規模噴火時の避難に係る研究等を行う桜島火山防災研究所の設置に向けた準備を進めました。



このほかにも、次の事業を行いました。

- クイズで分かる認知症特設ページ作成事業
- 介護人材確保支援事業
- 特定健康診査事業
- 食による適正体重化事業
- 定期予防接種事業
- 客引き行為等対策事業
- 災害時非常用電源備蓄事業
- など

5 豊かな個性を育み未来を拓く 誇りあるまち

①民間保育士等処遇改善補助金(721,894千円)

保育所等に勤務する保育士等の処遇を改善することで、保育士等の確保、職場定着や離職防止を図りました。

②児童クラブタブレット学習支援事業(13,099千円)

タブレット端末を活用した学習を支援するため、インターネット環境の強化等を行いました。



③児童相談所設置事業(1,795千円)

児童虐待対策の強化のため、児童相談所の設置に向けて、県農業試験場跡地を整備予定地とし、用地取得などの取組を進めました。

④こども医療費助成事業(1,695,184千円)

子育て世帯の負担軽減を図るため、こどもの医療費の一部を助成するとともに、本市独自の制度拡充に向け、システム改修等を行いました。



⑤桜島学校整備推進事業(26,704千円)

本市初の義務教育学校となる桜島学校の工事に係る手続きや、校歌や校章の制作などを進めました。(令和8年4月開校予定)



このほかにも、次の事業を行いました。

- 市立保育所ICT化推進事業
- 保育所等設置支援補助金
- 児童クラブICT化推進事業
- 児童クラブ施設整備事業
- 医療的ケア児受入推進事業
- 産婦健康診査事業
- 不妊治療費助成事業
- マリーサポートかごしまAIマッチングシステム導入事業
- こどもの未来応援条例推進事業
- フレンドルーム支援事業
- 電子黒板整備事業
- フレンドステップ・メタバース導入事業
- 学校給食センター整備事業
- 学校トイレ洋式化事業
- など

6 質の高い暮らしを支える 快適なまち

①歩いて楽しめるまちづくり推進事業(36,500千円)

高見馬場交差点歩道等にポケットパークを設置する社会実験などを行いました。



②主要渋滞箇所対策事業(38,651千円)

市道の主要渋滞箇所において、既存道路を活用し、玉里団地入口交差点の渋滞緩和の取組を進めました。



③公共交通不便地における持続可能な交通手段調査検討事業(28,896千円)

持続可能な交通手段を検討するため、公共交通不便地におけるAIオンデマンド交通の有料の実証実験を実施したほか、地域住民の意向調査等を行いました。



④地域公共交通ネットワーク再構築検討事業(26,993千円)

地域公共交通ネットワークの再構築を図るため、官民が連携して取り組む利便増進実施計画の策定に向けた移動実態等の基礎調査を行いました。

このほかにも、次の事業を行いました。

- 加治屋町1番街区市街地再開発事業
- 市街地再開発促進事業
- 子育て世帯住替支援事業補助金
- みんなで目指す渋滞解消プラン策定事業
- 相乗りタクシー実証実験事業
- など

物価高騰 対策

6年度は、長引く物価高騰に直面する市民・事業者を支援するため、以下の事業を行いました。

- 物価高騰対応重点支援給付金支給事業
- 低所得者支援補足給付金支給事業
- プレミアム付商品券等発行支援事業
- マグマの幸、鹿児島市宿泊キャンペーン事業
- 保育所等給食費支援補助金
- 介護サービス事業所等物価高騰対策支援事業
- など

令和6年度の決算の状況

区 分	歳入(A)	歳出(B)	形式収支 (C=A-B)	翌年度 繰越財源(D)	実質収支 (C-D)
一般会計	3,067億5,974万円	2,966億2,282万円	101億3,692万円	35億5,245万円	65億8,447万円

区 分	歳入(A)	歳出(B)	形式収支 (C=A-B)	翌年度 繰越財源(D)	実質収支 (C-D)
特別会計	1,351億8,542万円	1,378億2,393万円	△26億3,851万円	0	△26億3,851万円
土地区画整理事業清算	15万円	15万円	0	0	0
中央卸売市場	11億8,515万円	11億5,459万円	3,056万円	0	3,056万円
地域下水道事業	1億970万円	1億397万円	573万円	0	573万円
桜島観光施設	1億1,212万円	1億1,212万円	0	0	0
国民健康保険事業	653億4,149万円	690億2,141万円	△36億7,992万円	0	△36億7,992万円
介護保険	574億662万円	565億3,853万円	8億6,809万円	0	8億6,809万円
後期高齢者医療	107億5,660万円	106億5,473万円	1億187万円	0	1億187万円
母子父子寡婦福祉資金貸付事業	2億7,359万円	2億3,843万円	3,516万円	0	3,516万円

区 分	収入(A)	支出(B)	差引(A-B)
企業会計	524億829万円	545億6,213万円	△21億5,384万円
病院事業	256億4,684万円	282億4,669万円	△25億9,985万円
交通事業	37億5,817万円	42億8,753万円	△5億2,936万円
水道事業	108億8,545万円	99億1,232万円	9億7,313万円
工業用水道事業	930万円	605万円	325万円
公共下水道事業	95億7,907万円	94億8,041万円	9,866万円
船舶事業	25億2,946万円	26億2,913万円	△9,967万円

※企業会計は収益的収支を税抜き額で表示しています。



【ポイント💡】

一般会計は、歳入額から歳出額を差し引いた額(形式収支額)は101億円で、ここから翌年度で支払わなければならない繰越財源35億円を差し引いた額(実質収支額)は、66億円となり、前年度に引き続き黒字を確保しました。

特別会計は、国民健康保険事業特別会計において37億円の赤字となりましたが、翌年度からの繰上充用で対応しました。また、その他の特別会計は黒字が収支均衡となりました。

企業会計は、病院事業、交通事業、船舶事業において赤字となりましたが、その他の企業会計は黒字を確保しました。

一般会計

市の会計の基本であり、福祉、医療、教育や道路・公園の整備など基本的な行政サービスを行う会計です。

主な収入は、市税や国・県支出金などです。

特別会計

特定目的のための会計で、国民健康保険税や介護保険料など特定収入があり、一般会計から切り離して、その収入・支出を管理する会計です。

〔6年度 8会計〕

企業会計

地方公営企業(市立病院、交通局、水道局、船舶局)の会計で、民間企業と同じように、事業で収益をあげて運営する会計です。

〔6年度 6会計〕

一般会計決算額の内訳

歳出		2,966億2,282万円(年間支出)		歳入		3,067億5,974万円(年間収入)		
① 民生費	1,576億6,783万円 (53.1%)	子育て支援や高齢者の医療など福祉の充実に	自主財源 (市が自主的に調達する財源) (40.1%)	① 市税	905億2,277万円 (29.5%)	市民税や固定資産税など		
② 公債費	271億 26万円 (9.1%)	市債の返済に		② その他	324億3,310万円 (10.6%)	使用料や手数料など		
③ 教育費	225億3,123万円 (7.6%)	教育の振興に		依存財源 (国・県等から受け入れる財源) (59.9%)	③ 国庫支出金	777億4,517万円 (25.4%)	国が市の特定事業に出したお金	
④ 土木費	192億 398万円 (6.5%)	区画整理や道路、公園などに			④ 地方交付税	417億8,663万円 (13.6%)	国から交付されたお金 使い道は市が自由に決められる	
⑤ 衛生費	171億5,335万円 (5.8%)	環境や衛生の向上に			⑤ 市債	169億5,673万円 (5.5%)	銀行などから借り入れたお金 (返済時に国から一部補てんあり)	
⑥ 商工費	85億8,685万円 (2.9%)	商業・観光の振興に			⑥ その他	473億1,534万円 (15.4%)	県が市の特定事業に出したお金など	
⑦ 消防費	69億8,492万円 (2.4%)	消防・救急に						
⑧ 農林水産業費	26億8,782万円 (0.9%)	農林水産業の振興に						
⑨ その他	347億 658万円 (11.7%)	市の運営などに						
実質収支		65億8,447万円【黒字】						
翌年度繰越財源		35億5,245万円						



【歳出のポイント】

歳出総額は、2,966億円で、前年度比18億円(0.6%)の増となりました。

歳出で最も多いのは、社会保障関係経費である子育て支援や生活保護費などに使われる民生費の1,577億円で、一般会計全体に占める割合は53.1%となっています。

【歳入のポイント】

歳入総額は、3,068億円で、前年度比42億円(1.4%)の増となりました。

歳入で最も多いのは市税の905億円で、国庫支出金は物価高騰対応に係る交付金などの増加により、前年度と比較し、6億円の増になりました。

市民1人当たりの使い道は？

一般会計の歳出決算額2,966億円の使い道を市民1人当たりに換算してみました。

市民1人当たり約50万4千円の使い道 ※人口 58万 8,583 人で計算(令和7年4月1日現在)



○子育て支援や高齢者の医療など福祉の充実に
約26万8千円



○市の運営などに
約5万9千円



○市債の返済に
約4万6千円



○教育の振興に
約3万8千円



○道路や公園整備、区画整理などに
約3万3千円



○環境や衛生の向上に
約2万9千円



○商業・観光・農林水産業の振興に
約1万9千円

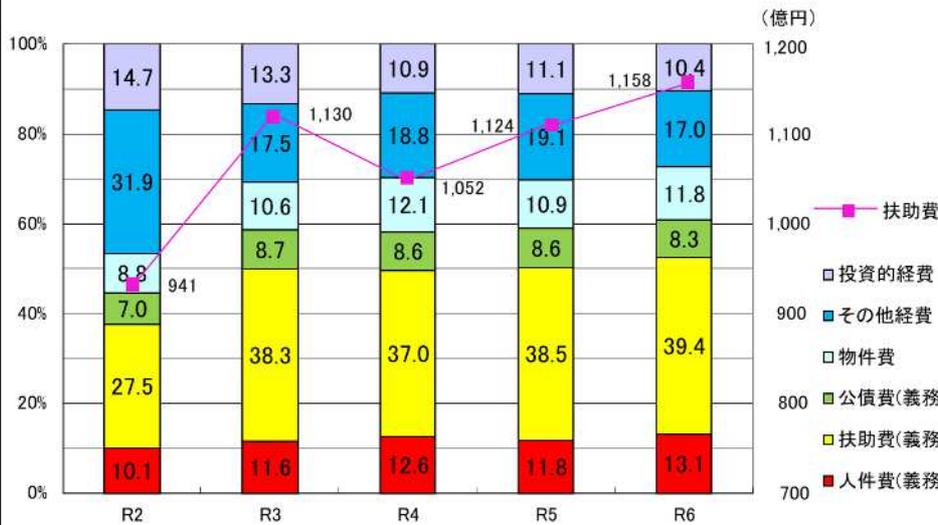


○消防・救急に
約1万2千円



扶助費は増加傾向

歳出決算(性質別)の推移(普通会計)



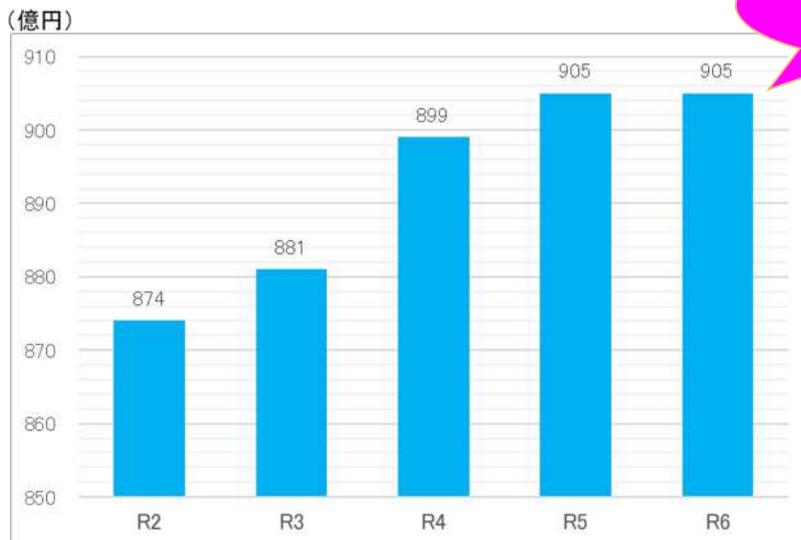
【歳出決算のポイント】

6年度決算では施設型給付費の増などにより、扶助費が前年度から増加しており、全体の39%を占めています。

■用語メモ

「普通会計」とは、各市町村の決算状況を統一的に比較するために地方財政統計で用いられている会計区分です。本市では、一般会計のほか、土地区画整理事業清算、地域下水道事業、母子父子寡婦福祉資金貸付事業の3特別会計を合わせたものです。

市税の推移



6年度は前年度と同額

【市税のポイント】

市税は鹿児島市のまちづくりを行うための最も重要な財源で、市民税や固定資産税、都市計画税などがあります。

6年度決算は、前年度と同額の905億円となっていますが、定額減税の国費補てん分を含めると、実質的な市税は過去最高となり、歳入全体に占める割合は約30%となりました。

市債残高の推移



実質的な残高は減少傾向

【市債残高のポイント】

市債は、道路や公園などを整備するにあたり、将来の市民の皆さんにも公平に費用負担をしていただくため、また、返済時に国から地方交付税が配分される観点から発行しました。

臨時財政対策債を除く実質的な市債残高は、1,480億円となりました。(市民1人当たり25万円となりました。)

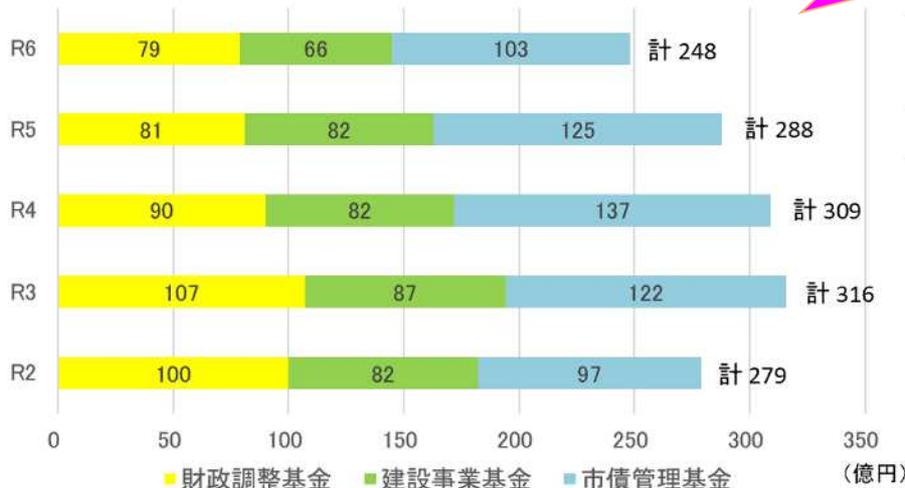
■用語メモ

「臨時財政対策債」とは、本来は地方交付税として、国から配分されるお金を国の財政上の都合で市が借りているものです。返済はすべて国の負担です。

- (1) グラフの右部分は、実質的な地方交付税である臨時財政対策債です。
- (2) 左部分は、臨時財政対策債を除いた残高です。

基金残高の推移

6年度は前年度より
40億円減少



【基金残高のポイント】

基金は、一般家庭の貯金に相当するもので、左の3基金については、必要に応じて積立てや取崩しを行っています。

この3基金は、少子高齢化、人口減少、社会保障関係経費の増加、公共施設等の適正管理、災害などに対処していくために必要な財源です。

6年度の残高は、前年度から40億円減少し、248億円になりました。

(市民一人あたり4万円となりました。)

(1) グラフの左部分は財政調整基金、中央部分は建設事業基金、右部分は市債管理基金の残高です。

実質収支の推移

6年度は66億円の
黒字を確保



【実質収支のポイント】

事務事業のしゅん別や見直し、経費の効率的な執行を行ったほか、可能な限りの財源の確保に努めたことなどにより、6年度決算では、66億円の黒字額を確保し、引き続き、健全財政を維持することができました。

■用語メモ

「実質収支」とは、その年度の決算で、収支が赤字か黒字かを示す指標で、歳入と歳出の差引額から、翌年度へ繰り越すべき財源を差し引いた額をいいます。

令和6年度決算のまとめ

本市の6年度決算は、前年度に引き続き黒字を確保し、実質的な市債残高も減少するなど、健全な財政運営を維持する中で、長引く物価高騰の影響を受けた市民生活や中小企業者等の事業活動を支援し、消費喚起・下支えの取組を行いながら、さまざまな施策を積極的に推進し、市勢の発展に努めました。

今後見込まれる社会保障関係経費の増大など、財政状況は、厳しさを増していくと思われませんが、可能な限り、各面からの財源を確保し、事業のしゅん別や見直しを行い、健全な財政運営に努めていきます。

★鹿児島市の予算や財政に関する情報は市ホームページでご覧いただけます。

<https://www.city.kagoshima.lg.jp/>

(【トップページ】⇒【市政情報】⇒【予算・決算・財政】⇒【財政状況】からアクセス)



健全化判断比率と資金不足比率

※毎年度、「健全化判断比率」と「資金不足比率」を公表しています。

○健全化判断比率

【健全化判断比率のポイント】

市の財政の健全度を測る指標で、基準を超えた場合、計画を定めて財政対策に取り組むこととなります。すべての項目で、早期健全化基準内となっています。

4 指標	内 容	6年度決算(速報値)		早期健全化基準 (イエロカード)	財政再生基準 (レッドカード)
			中核市順位		
実質赤字比率	一般会計などの実質赤字の比率	—	—	11.25%	20.0%
連結実質赤字比率	全会計の赤字や黒字を合算した実質的な赤字の比率	—	—	16.25%	30.0%
実質公債費比率	借入金(地方債)の返済額やこれに準じた額の大きさを示す比率	4.5% (4.7%)	26位/62市 (26位/62市)	25.0%	35.0%
将来負担比率	一般会計などの地方債や将来支払う可能性がある負担などを加味した実質的な負債の比率	39.9% (32.0%)	39位/62市 (36位/62市)	350.0%	

※()内は5年度決算

○資金不足比率

【資金不足比率のポイント】

公営企業会計の財政の健全度を図る指標で、基準を超えた場合、計画を定め、経営改善に取り組むこととなります。6年度決算では、交通事業特別会計において資金不足額があるものの、経営健全化基準内となっています。

公営企業会計	6年度決算	経営健全化基準
交通事業	0.8% (—)	20.0%
病院事業	— (—)	
水道事業		
工業用水道事業		
公共下水道事業		
船舶事業		
中央卸売市場		
桜島観光施設		

※()内は5年度決算



～『令和6年度決算のあらまし』の作成にあたって～

60万市民の皆さんからお預かりした大事なお金。
市民と協働のまちづくりを進めていくために、大切にに使わせていただきました。
これからの「予算」だけでなく、取組の成果である「決算」を見やすく、わかりやすくお伝えし、あすの鹿児島市につなげていくために「令和6年度決算のあらまし」を作成しました。
市政の主役である市民の皆さまのさまざまなご活躍を、健全財政の維持と創意工夫を凝らした行財政運営で、これからも支えてまいります。

令和6年度 決算のあらまし
作 成／鹿児島市財政課

〒892-8677 鹿児島市山下町 11-1 ☎099-216-1155